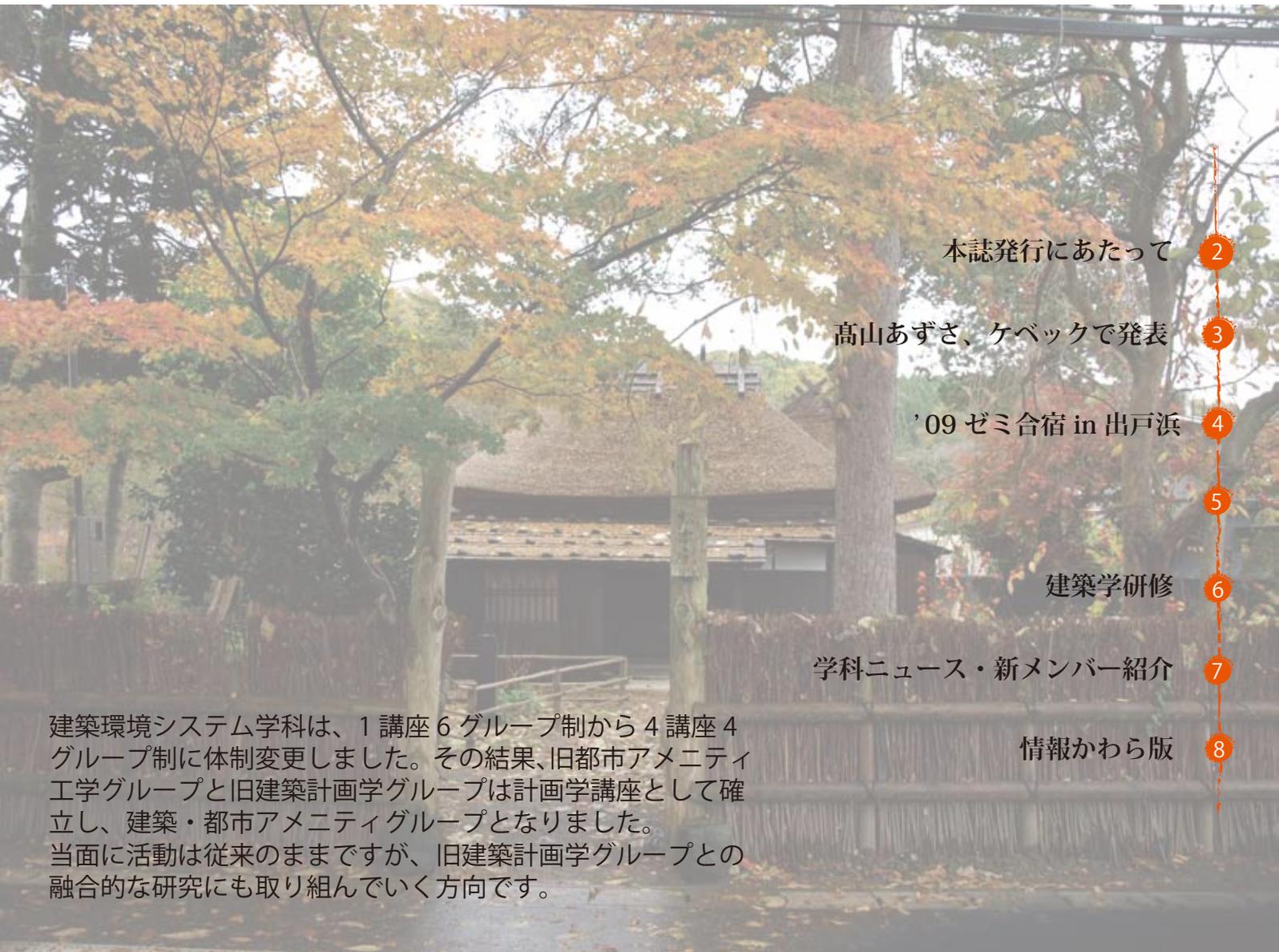


UAEL

URBAN AMENITY ENGINEERING lab.



都市アメニティの輪を広げる ニュースレター第2号



本誌発行にあたって

2

高山あずさ、ケベックで発表

3

'09 ゼミ合宿 in 出戸浜

4

建築学研修

5

学科ニュース・新メンバー紹介

6

情報かわら版

7

建築環境システム学科は、1講座6グループ制から4講座4グループ制に体制変更しました。その結果、旧都市アメニティ工学グループと旧建築計画学グループは計画学講座として確立し、建築・都市アメニティグループとなりました。当面に活動は従来そのままですが、旧建築計画学グループとの融合的な研究にも取り組んでいく方向です。

第二号発行にあたって

本格的な冬の到来を前に、皆様、いかがお過ごしでしょうか？

2009年後期の都市アメ研は、8月に7人の3年生が配属され、新任の小川助教と中国からの科目履修生を加えると総勢20人の大所帯となりました。また、全体ゼミに加えて月曜の午前9時から始まるcoffee付きの週頭ミーティングもスタートさせ、「強い」研究室を引き続き目指しているところです。

今回の研究室ニュースレター（U A E L 第2号）は、夏休みに実施したゼミ合宿の報告を中心に、高山さんのケベックでの研究発表体験記、建築学研修の成果、3年生紹介などで構成しています。秋田の地での活動に心をよせて頂ければ幸いです。

近況報告



学生たちの創造力と発想力を高めるための思考ツールとして、何年も前からマインドマップの使用を推奨してきた。推奨するからには教えなくてはならないのが、考案者のトニー・ブザン氏が書いた本を学生数分購入して貸与することで済ませてきた。それでも大分効果があったと思うが、正しい方法でマインドマップを学生達に教育したい

気持ち日が追う毎に強くなっていった。マインドマップを他者に教えるには公認インストラクターになって有償で教える必要がある。もちろん、非公認のままの我流でなら自由だが、トニー氏が30年間かけて編み出した手法を見よう見まねで教えるだけでは、かえって学生たちに中途半端な技能を植え付けかねない。そのため正規のインストラクターとして研修を受けて公式の教材を使って教えたかった。

そんな折、我が国でマインドマップの教育界への普及を目指すブザン教育協会が、教員を対象としたマインドマップ教育フェロー制度を運営していることを知った。この制度を使えば、学生達に無償で公式講座を行うことができる。そこで私は今、教育フェローとなって学生達にマインドマップを教えている。もちろん、勉強をせずマインドマップをやるだけで良いということはない。マインドマップは、あくまで思考を「見える化」するツールとして、各自の日常の勉強を支援するものである。既に受講した学生は使いこなしており、これから創造力や発想力、分析力等の向上として効果が見えてくるであろう。既に他の教育機関では様々な成果が上がっており、今後の発展が楽しみである。

その他、今年度の話題としては、出版の話がいくつも折り重なって進んでおり、大変だが充実した状況にある。よく仕事の報酬は仕事と言うが、いろいろなことを経験させてもらえるのは本当にありがたい。一番大きいのは井上書院の「建築デザイン用語辞典（仮称）」に携われたことである。辞書の原稿作成は初めてだったが、院生の協力を得ながら順調に進めることができた。

最後に自治体地理情報システム（自治体 GIS）の出版計画が2件、サステナブル建築関連の出版企画構想が1件ある。自治体 GIS の出版は、導入を検討している自治体向けの入門書と、技術者向けの実学書の2種類を進めている。サステナブル建築関連としては、建築家と設備エンジニアのコラボレーションについての本を出す予定である。

浅野 耕一

【計画学講座・都市アメニティ工学分野】

都市の「計画」を考える

私の専門分野は都市計画、つまり都市を対象にした計画行為にかかる分野である。建築物群と公共施設で構成される一体的な都市空間を対象としている点で、建築計画の分野とは異なる。

では、都市計画と建築計画に共通する「計画」とは何であろうか？計画という言葉を広辞苑でひけば、「物事を行うに当たって、方法・手順などを考え企てること。また、その企ての内容。」とある。企てること、あるいは企ての内容という点で「意図性」を含んでいることが読み取れる。またその企てにあたり、方法・手順などを考える前提のあることがわかる。そして、行為としての企てと成果物としての企ての両方の意味を併せ持つことがわかる。これは、Planning と Plan の両方の意味を併せ持つと補足すれば容易に理解できるだろう。いずれにせよ、計画は予想ではないし願望でもない。目標設定を自ら行い、その目標への到達のための方法・手順を考え、その実施により目標到達を図ることを意図することないしその意図の内容が、「計画」と称される。

同じような意味合いで、予定という言葉がある。「午後6時に会社を出て、地下鉄日比谷線からJR山手線に恵比寿駅で乗り換えて渋谷駅に着き、午後7時から始まる映画を観に行く予定である。」というように使われる言葉である。ただし、予定は「行事や行動などをあらかじめ定めること。前もって見込みをつけること。また、その見込みや定められたこと。」という意味であり、事前判断、事前確定がポイントである。電車が事故で止まることにより、予定は変更せざるを得ない。一方で、「計画」は企てに重点が置かれ、方法・手順に事後の可変性の余地がある。思えば、企てという言葉には相手に働きかけてその反応を見、それ組み込んでコトを為すというニュアンスが含まれている。都市計画は都市空間に関する企てであり、先に示した「計画」の本質を考えるならば、実現手段の適用をすべて事前確定して粛々と事業を進めることではないだろう。

加速度的に変化していく時代において、都市計画が賞味期限切れの産物にならないよう、懐が深くも実効性の高いPlan とそれを支えるPlanning 体制の研究がさらに必要と日々考えている。



山口 邦雄

【計画学講座・都市アメニティ工学分野】

高山あずさ、ケベックで発表

ここで、あずささんがケベックで発表した内容を紹介します。

ケベックってどんなところ？

ケベックシティは、カナダのケベック州の州都。2006年統計で人口はおよそ53万人、広域圏では72万人。市内の旧市街はメキシコ以北では現存する唯一の城郭都市となっており、1985年にユネスコの世界遺産に「ケベック旧市街の歴史地区」として登録された。同市は1608年に設立されており、北米内で最も古い歴史を持つ都市のひとつでもある。国際的には町のシンボルにもなっている歴史的ホテル「シャトー・フロンテナック」がよく知られている。市の郊外にはモンモランシーの滝とサンタンヌ・ド・ボープレ聖堂がある。北米にありながら、州の公用語がフランス語であることから、人々の生活スタイル、建築、芸術、ファッションなどはフランス文化が色濃い都市である。



あずささんの感想

まず、無事にケベックシティについて発表をし、帰国することができてよかったです。私は国内外も含め学会で発表するのは初めてで、また海外に行くのも初めてだったので今回の学会発表ではたくさんの体験をすることができました。学会では同年代の方はあまりいなかったのですが、海外の研究者の方の発表を聞くことができて非常に勉強になりました。

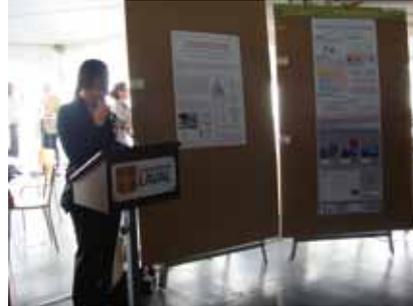
また、他の方の発表の質疑応答では国の違いによる考え方の相違が元の質問があり、日本国内では当たり前だと思っていることも国を出れば違ってくるということを目の前で体験することができたのでとてもよかったです。

滞在期間中に「National Day」という日本でいう建国記念日みたいなお祭りがありました。ケベックの州旗を掲げている車が日中街中を走っていて、夜は大通りが歩行者専用になっていて「□○△×@、ケベック！（フランス語で聞きとれませんでした）」と言いながら楽しそうでした。私はそんなケベックの人たちにもみくちゃにされながら無事にホテルに帰りました。ケベック滞在期間は3泊4日でしたが、非常に濃い体験ができたと思います。出発前は不安でいっぱいでしたが、行ってみるとハプニングは色々あっても楽しい体験ができました。個人的にもう一度行きたいと思える街でした。



Study on Reusing Abandoned Chimneys as Solar Chimneys to Induce Breeze in Residential Areas

M10C006 高山あずさ



近年、東京の住宅地では多くの廃業した銭湯がそのまま残されている。本研究では廃業した銭湯の煙突をソーラーチムニーとして転用した場合の建物の温熱環境性能評価シミュレーションを行った。

研究方法はGoogle Mapから廃業した銭湯の規模を統計し、平均的な銭湯の規模から簡易的な建物モデルを作成し、温熱環境評価シミュレーションを行った。また、実際に既存の煙突をソーラーチムニーに転用した美術館（犬島アートプロジェクト「精練所」：岡山県犬島）を対象とし、同様のシミュレーションを行った。シミュレーション結果はどちらのソーラーチムニーも煙突上部から排気していたことが確認できた。しかし、廃業した銭湯の煙突を利用したソーラーチムニーでは建物内部を環境を快適にできるほどの換気性能がないことがわかった。また、壁の断熱性能を今回設定したものより上げる必要があることがわかった。一方、犬島の美術館のソーラーチムニーでは夏期、冬期のシミュレーションでも外気温26℃～31℃、0℃～12℃のときSET*26℃、16℃前後という結果を得た。このことから犬島のソーラーチムニーは建物内部環境をやや快適にできる換気性能があることがわかった。以上、2つのシミュレーション結果から煙突の規模が換気性能に影響することがわかった。銭湯の煙突の高さが15mであったのに対して犬島の煙突は30mだったからである。

09' ゼミ合宿 in 出戸浜



夏期研究の成果

地域発表会では、3班の提案の発表の後に様々な意見や質問を頂きました。提案についての意見だけではなく、今回の研究を行ったことに対して、今後まちづくりについて考えていく上での良いきっかけとなったなど、好意的な意見を頂くことができました。他人事としての提案ではなく、自分たちが本当に住みたい街にするための提案をすることは難しいということを実感することができました。

また、3年生にとっては初めての合宿や住民の方々に向けての発表会ということで、緊張しながらも一生懸命自分たちの考えを伝えました。4年生、院生は3年生を引っ張りつつ昨年度より更にレベルアップした提案ができるよう知識と体力をフル活用して夏期研究に取り組みました。合宿によって学年の隔て無く交流・意見交換をしたことで、お互いを認め合う団結力の強い研究室となりました。

夏期研究の報告

今年度の都市アメニティ分野研究室の夏期集中研究は、潟上市出戸浜駅周辺の住宅地を対象として行いました。住宅地を1, 歩行系ネットワーク、2, 空き家、大規模空閑地の3つの班を設けてそれぞれ分析・検討しながら進めました。各班、事前研究をした後に9月7日と8日の1泊2日で現地調査と中間発表、その後大学内で成果のまとめ作業をして10月3日、最終成果物を出戸浜で発表しました。発表会には潟上市役所の方や住民の方々が多数参加して下さいました。そこでは、提案の発表や意見交換を行い、まちづくりとは何なのかを考える良い機会となりました。

1, 地域を繋ぐ五感の散歩道～歩行系ネットワークの提案～



歩行系ネットワーク班は、住宅地の魅力づくりに繋がる外構、歩行系ネットワークの提案と私有地を含めた道路空間の検討をテーマとした提案を行いました。現地調査等の結果を踏まえ、提案の方針を「地域の交流」、「地域の魅力資源の活用」、「歩行者の安全に考慮した整備」の3つとし、提案を「地域をつなぐ五感のさんぽ道」としました。このさんぽ道は、アートの要素を含んだカームアートロード、ガーデニングの要素を含んだブロッサムロード、農業の要素を含んだ空閑地内の通り、この地域の主軸の通りとなるグリーンサムロード(通り名は既存のもの)の4つで構成されています。具体的には、各通りの公有地に歩道を設けました。道路の幅員、冬の除雪作業を考慮し、歩道と車道の境界には柵などは設けず、異なる種類の舗装、境界にくぼみを設けることで区分しました。また、道路沿いの私有地も活用の対象としました。その活用の仕方は各通りで異なり、道路の舗装デザインと類似したデザインで植栽を植え、通りを視覚的に広くしたり、地域の方が作ったものを展示するスペースを設けたり、オープンガーデンとして活用します。

期待される成果と今後の展望は、第一に歩行ルートがつながることにより、それを利用する人と人とがつながり、地域住民の交流の接点が増えるということです。第二に各通りで行う取り組みがその通り以外にも広がり、小道なども活用の対象となり、地域の魅力が拡大します。

2, 空き家に詰める高齢者の知恵～繋がる伝統・新たな継承～



空き家に詰める高齢者の知恵 - 繋がる伝統・新たな継承 -



空き家活用班では、空き家について調査を進め、「空き家に詰める高齢者の知恵 - 繋がる伝統・新たな継承 -」をテーマに、新たな機能と活用案を提案しました。2時間の現地調査から、「高齢化、他地域への移住者増加、商業施設が少ない、空き家・空き地・畑の点在」という結果が得られました。これから、空き家を住民が地域の知恵や食材と触れあい、地域の魅力を再確認できる場にできないかと考えました。具体的には、1階をとれたてマーケットとして、住宅地にある小規模な産直のような場所にします。ここでは、地域の空き地や畑で野菜や果物を栽培された収穫物を生産者が販売します。収穫物に加えてジャムなどの加工品の販売も行います。2階は、キッチン・DETOとして、料理教室や定期的なイベントを行う交流スペースに使用します。空き家の庭では、オープンカフェや展示場とします。

まず、1～2年は運営団体をつくり、行政やNPO法人、民間開発事業者の支援を受けて、収穫祭のようなイベントを行う場として利用します。存在が浸透してきたら、日常的な店の運営、地域通貨も始めます。5年後には、徐々に外部からの利用が増え、住民の協力で運営します。将来は、周辺の空き地等を利用して定期的に小規模なマーケットを開いて散歩しながら楽しめる空間を目指します。移住者が増えたとすれば、空き家を住宅のストックとして利用も考えられます。しかし、地域での協力体制がなければ、地域の魅力は伝わりにくく、外部からの移住者は難しいと考えられます。今回の私たちの提案がまちづくりの役立つことを期待します。

3, ”農”を通じた景観資産価値の維持・向上を目指して～大規模空閑地の利用像～



大規模空閑地活用班は出戸浜住宅地域内に点在する空閑地を地域整備・活性化に結びつけ、街並み景観による資産価値の維持・向上を計ることを目的とした提案をしました。まず、出戸浜地域のフィールドワークを行い、この地域には、小学校周辺・住宅地内・グリーンサムガーデンの3カ所に大規模な空閑地を発見しました。また、民間開発事業による整備も行われており、景観を重視したまちづくりを目指していること、「潟上市食育推進計画」が策定されたことなどが明らかとなりました。

これらを踏まえ、大規模空閑地をクライナガルテンとして利用することを提案します。提案するに先立ち、空閑地に「“農”を楽しむゾーン」「“音”を楽しむゾーン」「“街”を楽しむゾーン」の3種類のゾーニングを行いました。“農”を楽しむゾーンでは、畑を町内ごとに区分し、休憩スペースには自分の畑や家族の紹介が行えるようスペースを設け、野菜の栽培を通じたイベントを開催できる施設を計画しました。畑と街を繋ぐルートに触覚と聴覚を通して楽しむことが出来る“音”を楽しむゾーンを設けました。“街”を楽しむゾーンは住宅内の空閑地に設け、地域に根ざしたイベント・市民活動を通じて、にぎわいの創出、市民の交流を促すことで魅力ある活動の発信源とします。今後は、住民のさんぽコースとしての活用してもらうことでクチコミによる利用者の増加が期待できます。また、新たな土地利用の要望を取り入れていくことで、住民の増加による市街地中心の活用を想定した運営システムの早期確立を目指していくことを期待します。



平成21年度の建築学研修のタイトル

小田島 慶昌

- ・時空間地理情報システムを用いた
災害情報表示に関する一考察

佐藤 祐衣

- ・時空間地理情報システムを用いた自治体業務
における平常時と災害時の連続性に関する一考察

立花 葵

- ・本荘城下絵図を用いた当時の都市イメージに対する一考察

土田 健太郎

- ・景観形成における自家用広告物の
コントロールの実態に関する研究
-東北6県の政令指定都市、中核市を対象として-

中島 祥崇

- ・東北地方における「まちづくり NPO」が
地域活性化に対して与える影響に関する研究
～定款・事業報告書の分析とヒアリングによる調査から～
- ・福田 恭史
野外公共空間の滞留行為を促進する
空間心理要素と熱環境の比較

藤原 克彰

- ・商業地における私有地のセットバック空間と
公有地の歩道との一体性の要因に関する研究
-弘前市上土手町通り、湯沢市大町商店街、
盛岡市材木町商店街を事例として-

時空間地理情報システムを用いた自治体業務 における平常時と災害時の連続性に関する一考察 B08C017 佐藤祐衣

- ・研究の意図と目的

時空間地理情報システムの（以下、時空間 GIS）の導入により、自治体業務の効率や市民サービスの向上、行政コストの削減等が期待できる。由利本荘市では平成20年度より全庁統合型時空間 GIS を運用している。

既往の研究により、災害時にも情報処理が円滑にできるよう開発されてきた。災害時には使い慣れたシステムでなければ即時対応は困難である。そのためには平常時から繰り返しシステムを使用することが効果的である。本研究では、図上防災訓練や操作講習会、運用方法の提案などによって平常時と災害時の連続性を向上させることを目的としている。



- ・まとめと今後の抱負

今回平常時の問い合わせ対応業務においての情報処理カードやレイヤの作成により、全庁統合型時空間 GIS を使った平常業務の情報処理を災害時も考慮しつつ効率的に行う第一歩になったと考える。職員も平常業務と災害対応を同じ形式で情報処理することに関して好意的な意見が多く見られた。

今後は、平常時と災害時それぞれにおいて多くの職員が時空間 GIS を使いこなすことができるよう、図上訓練などを継続して行う。また、庁内にカードなどの今回作成したものを取り入れ、更に詳しい内容のアンケート調査などにより職員の生の声を反映させながら、更に使いやすいシステムを検討し、実装していきたい。

商業地における私有地のセットバック空間と 公有地の歩道との一体性の要因に関する研究 B08C036 藤原克彰

- ・研修の背景と目的

商業地では、魅力的な街並み形成や歩行者空間の確保を目指し、自らの私有地内での壁面後退（セットバック）により、街路と建築物の間に公的な利用空間を形成する例がみられる。しかし、未後退建築や、セットバック空間に物を置くなどして、全体として利用の一体性が確保されていない箇所が存在する。

本研修では商業地におけるセットバックに関わる私有地と公有地について、「物理要素」「利用」「維持管理」に着目し、それらの実態を調査するとともに、一体性の要因を考察することを目的としている。

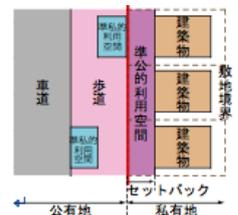


表1 私的利用の実態

		上土手町通り	大町商店街	材木町商店街
私的利用	あり(棟)	公 8 (13.1)	14 (20.0)	34 (41.0)
	非公	39 (68.4)	29 (50.9)	29 (65.9)
なし(棟)	公	53 (86.9)	56 (80.0)	49 (59.0)
	非公	18 (31.6)	28 (49.1)	15 (34.1)
平均私的利用面積 (㎡)	公	0.57	0.68	1.26
	非公	1.42	2.04	2.46
平均私的利用比率 ^{※4} (%)	公	2.5	2.2	5.7
	非公	4.8	8.1	22.2

※1: 公有地(歩道部分)、非公: 非公的利用空間 □ 内の数字は%
※4: 建築物前面の公有地(歩道部分)と非公的利用空間それぞれの中で私的利用面積が占める割合

表2 維持管理の実態

		上土手町通り	大町商店街	材木町商店街
清掃	公	商店街	県、商店街	市、商店街
	非公	商店街	商店街	商店街
修繕	公	県	県	市
	非公	商店街	県、市、商店街	商店街
不適切利用の措置	公	県(指導のみ)	—	—
	非公	—	商店街	—

※1: 公有地(歩道部分)、非公: 非公的利用空間 —: なし

- ・結果とまとめ

私有地のセットバック空間と公有地の歩道との一体性の要因の一つは、維持管理の実態から「私有地と公有地それぞれの所有者が協力して維持管理を行うこと」であることが明らかとなった。

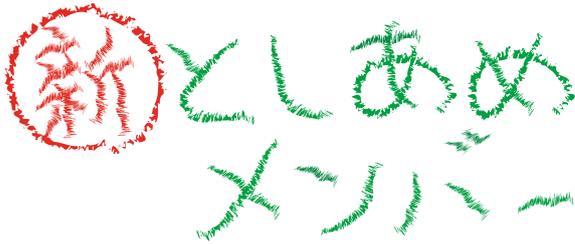
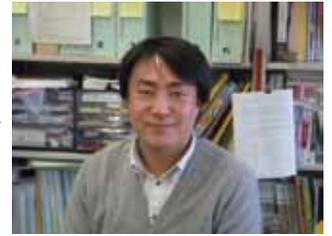
また、物理要素の実態から、私有地と公有地の舗装の素材・色彩の統一があること、利用の実態から、後退距離と私的利用の間の相関関係の有無が明らかとなった。しかし、これが一体性の要因にどの程度影響があるのかは明らかでない。

都市アメ研にニューフェイス現わる！！

10月より都市アメ研に着任した小川宏樹助教に、プロフィールや抱負をお聞きしました。

四国の徳島県出身で、現在34歳の遅れてきたルーキーです。学生時代は三重大学建築学科の都市計画研究室で、都市計画や地域施設計画の研究をしていました。色々な職を経て、前の職場（女子短大）ではインテリアデザインを教えていましたので、都市アメ研にやって来て、ようやく本職に戻ってきた感じがしています。

最近取り組んでいる研究テーマは「人口減少時代の郊外住宅団地のマネジメント」で、人口が程々に維持でき、今後も住み続けられる団地とはどのような条件を持った所なのかという事に興味を持っています。これまでに、住宅団地の人口維持には「中心市街地から近い」とか「公共交通の利便性が良い」といった地理的・物理的環境だけでなく、「地域の評判・雰囲気が良い」とか「お祭り・行事や町内会の清掃活動等のコミュニティ活動が活発である」といった質的環境も関係があるということ調査してきました。今後、そういった質的条件を定量的に把握していくことで、今後のまちづくり政策に意義のある提案ができればと考えています。



研究室に新たなメンバーが加わりました。
新メンバーの皆さんに自己紹介や抱負を語っていただきました。
みなさん、よろしくお願いします。

Tatsuhiko Kato
加藤 辰彦 1988/10/02
部屋の掃除をきちんとする
宮城県立古川高校
規則正しく生活できるよう努力する



Yu Kaneko
金子 佑 1988/04/08
岩手県立久慈高校
メリハリつけてがんばります！！



Ayako Kodama
小玉 彩子 1989/03/06
秋田県立秋田北高校
嫌いなもの
金縛り
オレンジ色
辛いガム
酢豚のパイナップル
とりあえずツッコミの技術からかな！
憧れの都市アメンパーになれたので、
いろんなことを
吸収していきたいと
思っています。



Miyuki Shinohara
篠原 美由希 1989/01/21
広島県立呉宮原高校
抱負：情報処理能力UP↑
好きなもの：奥田元宗・小由女美術館
夕焼けの緑色、紅生姜
熱めの湯船、苔玉



Noriko Sugawara
菅原 功子 1987/05/10
秋田県立秋田北高校
研究がんばる。
無駄遣いしない。
息抜き上手になる。



Yuika Suzuki
鈴木 結花 1988/05/27
岩手県立盛岡第四高校
マヨネーズが嫌いでちよつとでも
入ってるとどうしても食べられません
どうぞよろしくお願いします



Yutaka Watanabe
渡邊 豊 1989/01/01
福島県立白河高校
好きな音楽：19, KABIAN, Oasis
少ないタッチ数でプレーすることを心がけます



Yan Yanlin
嚴 彦淋 1986/10/05
宜賓市第一高校（中国）
好きな食べ物：ケーキ、辛いもの





イベント計画表

'09.10 - '10.3

- 10 ・ゼミ合宿報告会（潟上市出戸浜地区）
- 11 ・本紙発行 
- 12 ・忘年会
- 2 ・都市アメニティシンポジウム
日時：2/24（水） 10：00～17：00
場所：秋田市民交流プラザ 多目的ホール
- ・都市アメニティ工学分野 卒業・修了展
日時：2/26（金）～28（日）
10：00～16：00
場所：秋田市民交流プラザ きらめき広場
- 3 ・卒業論文審査会・修士論文審査会
・卒業式・修了式

編集後記

第2号より、新たに3年生をメンバーに加え、ニュースレターの編集を行なっております。本紙は、研究室が行なっている研究や地域活動の広報という役割だけでなく、こういった簡単なDTPの技術や広報のノウハウを学生に身に付けてもらうという教育活動の一環でもあります。

毎年メンバーが入れ替わることにより不慣れな点もありますが、都市アメ関係者の皆様に喜んでいただけるようがんばりますので、ご意見・ご感想をお待ちしております。

2009.11.24 NL 編集部

加藤 辰彦 金子 佑 菅原 功子 福田 恭史 小川 宏樹

みなさん、こんにちは。前回のOB 小野寺さんよりバトンを受け取りました加藤咲貴子と申します。

私は横浜市にある従業員 7 名の小さな工務店で働いています。新築・リフォーム工事を手がけ、地域に密着した営業体制で顧客を得てきました。会社の経営方針と面接官だった社長の人柄に興味を持ち、現在入社 4 年目です。CAD 操作や設計図書の作成といった作業から、電話対応、ダイレクトメール発送、ホームページ管理まで幅広く、もはやこの小さな会社には、職種の名前しか存在しないような状況です。大企業のようなネームバリューはありませんが、若手のうちから何にでも挑戦させてもらえる、という環境があります。

大学時代は本荘の中心市街地を巡回する「ごてんまり号」のバス停配置について研究していました。地図データから歩行距離を読み取ったり、バス停の最適配置をしたりするためのプログラムに苦戦しました。が、今会社でのホームページ管理の場面で、プログラミングの感覚が生きています。どこで何が役に立つかわからないものです。苦手なことも、やりたくないことも一度は触れてみると、どこかで自分の価値を高めてくれます。

今現在みなさんは都市アメ、そして学科のメンバーとは毎日のように顔を合わせているので、さほど意識はされないかもしれませんが、就職して 1 年も経つと連絡先が変わり、連絡が取れなくなる仲間がいます。集まりたくてもそれぞれ忙しく、予定も合わず、みんなが集まることが叶わなくなります。そうなってしまう前に、確固たる連絡手段を作っておくときっと後で重宝します。（もうお持ちかもしれませんね。）私たち 4 期生の半数弱は関東に住んでいるので、年に 1 度徴集をかけて、都合のつく人で飲み会をしています。県大という共通のバググラウンドを持つ仲間が集まると、ホッとしますし、本当に楽しい時間が過ごせます。

本年は開学から 10 年という節目の年でしたね。在籍されているみなさんが都市アメを、県大を盛り立ててくれていることを嬉しく思います。先生方のご指導のもと、思い入れのある研究活動を行ってください。みなさんのご活躍と県大の発展を祈念して、結びとさせていただきます。

OB・OGの皆様へ

都市アメからのお願いです。ぜひぜひ、OB・OGのコメントにご協力お願いします。連絡は下記（小川）まで。山口先生が今年度から就職委員長となりました。OB・OGの皆さん、就職ガイダンスで「先輩に聞く就職活動と企業状況」という企画がありますので、来校可能な方は是非ご協力下さい。



UAEL 編集部
〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口 84-4
秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科
電話：0184-27-2061 mail：wogawa@akita-pu.ac.jp
担当 小川 宏樹